

第72次 印旛地区教育研究集会
国語「読むこと」分散会 提案資料

研究主題

読む力を身につけ、言語表現に活かす児童の育成

～多くの子どもが授業に参加できる場作りを通して～



富里市立七栄小学校

目次

1 研究主題

2 主題設定の理由

- (1) 学習指導要領から
- (2) 学校教育目標から
- (3) 児童の実態から
- (4) 令和3年度研修課題から

3 研究仮説と具体的な手立て

4 研究構想図

5 実践例

- (1) 第1学年の実践
- (2) 第4学年の実践
- (3) 第6学年の実践

6 成果と課題

資料編

1 児童の実態調査・意識調査問題

2 言語環境の整備 語彙力を高める取り組み

3 読書環境充実のための取り組み

1 研究主題

読む力を身につけ、言語表現に活かす児童の育成 ～多くの子どもが授業に参加できる場作りを通して～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

現代社会では、通信機器や情報端末が発達し情報検索・情報通信の仕方が日々進化している。言葉を通じて意思や感情をやりとりするということが、より精密に高速に行われている。子どもたちがこうした変化の激しい社会を生きるためには、学んだものを組み合わせて新たな考え、方法などを生み出したり、様々な情報を取捨選択して活用したりする能力が求められる。

国語科では、育成を目指す資質・能力を「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」としている。一方的に知識を得るだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をさらに充実させ、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指している。課題に対して意見を出し合い、解決方法を探る授業や、国語科で学んだ語彙を表現に生かす等、学んだことを実生活に結びつけ、活かしていける力を養うことを課題としている。

(2) 本校の教育目標から

七栄小学校の学校教育目標

子ども一人一人に目を向け、協働した取り組みを通して、「助け合い、進んで学ぶ、じょうぶな子」を育てる

国語科におけるめざす児童像

- 言語能力を高め、主体的に考えることができる子
- 目的や相手に合わせて、表現することができる子

国語科の研究に取り組むことにより、本校の目指す児童像の「進んで学ぶ子『人の話をしっかり聞く、目標を持って、進んで学習する、たくさん読書する』」の姿が見られるように努力していきたい。

(3) 児童の実態から

本校は、富里市の北西部、七栄地区のほぼ中央に位置する。交通の便は、かつては、畑作農業地域であったが、近年は国道沿いに店舗が広がるとともに、住宅地も増加し、富里の中心地域としてにぎわいを見せている。外国籍も多く、家庭環境の違いも見られる。

本校児童は、明るく活発で伸び伸びとしている。与えられた課題に対しては真面目に取り組もうとする意欲がある。しかし、基礎・基本的事項の習得にかなりの個人差が見られ、学年が上がるにつれて、その差が大きくなる傾向がある。語彙力が低く、長文を読むのが苦手、集中力が続かない傾向がある。国語科では、音読練習や読書学習など継続的に取り組んでいるが、該当学年の達成目標に届かない状態の児童も多い。文章や言葉の意味を正確に理解できていないため、読みが浅く、自分の経験だけをもとに考えている様子が見られる。文章中の言葉や表現に着目して考えたり推測したりすることができない。日々の学習指導のあり方や指導体制

等に原因の一端があることは否定できない。読み取りに関する実態調査問題を学年別に作成し、実態を正確に把握できるように取り組んだ。

令和2年度の実態調査は、以下の通りである。

R2年度 2月	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①主語と述語	89%	96%	20%	16%	34%	32%
②形式段落	37%	43%	75%	37%	75%	68%
③接続詞		81%	98%	57%	78%	82%
④語彙	87%	87%	59%	82%	71%	64%
⑤指示語	57%	83%	62%	36%	81%	73%

学年が上がり長文になるにつれて、主語と述語の関係を捉えにくくなっている。また、語彙の習得と活用の項目についても低いことがわかる。

令和3年度の実態調査は以下の通りである。

※矢印は各学年の変容

R3年度 2月	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①主語と述語	100%	80%↓	27%↓	40%↑	42%↑	44%↑
②形式段落	68%	71%↑	36%↓	53%↓	70%↑	81%↑
③接続詞		87%	62%↓	67%↓	92%↑	67%↓
④語彙	96%	90%↑	80%↑	74%↑	69%↓	39%↓
⑤指示語	80%	88%↑	61%↑	79%↑	75%↑	73%↓

令和4年度の実態調査は以下の通りである。

R4年度 5月	1年	2年	3年	4年	5年	6年
①主語と述語		98%↓	6% ↓	25%↓	27%↓	36%↓
②形式段落		59%↓	64%↓	19%↓	59%↑	65%↓
③接続詞		76%	44%↓	47%↓	29%↓	81%↓
④語彙		96%	26%↓	85%↑	29%↓	47%↓
⑤指示語		87%↑	10%↓	77%↑	69%↓	82%↑

主語と述語の関係を押さえられるようになってきているものの、低い傾向にある。語彙や指示語に関しては中学年までは多少定着してきているが、語彙数や、抽象的な言葉が増える高学年では下がっている。形式段落の分け方や接続詞の使い方が定着していない。R3 年度末は達成率が上がっていても、新年度になると全体として下がっている。当該学年の内容では、文章全体のつながりを理解しながら読み取ることができないと言える。

〈県学力テストの結果から〉

令和2年度

領域	平均得点率
主体的に学習に取り組む態度	83. 5%
話すこと・聞くこと	79. 0%
言語	74. 4%
書くこと	64. 2%
読むこと	58. 4%

令和3年度

領域	平均得点率
主体的に学習に取り組む態度	81. 7%
話すこと・聞くこと	75. 6%
言語	72. 4%
書くこと	65. 9%
読むこと	62. 1%

達成率が低かった「読むこと」だが、令和2年度から令和3年度では、わずかながら上昇している。手探り状態の指導ではあるが、語彙指導、文法、読解の手立てなどを実態に合わせて指導した。

(4) 令和3年度の研修の反省から

令和3年度の研究主題は「読む力を身につけ、それを生かして表現する児童の育成～自分の思いや考えを明らかにする場を通して～」であった。読解力の向上と学習内容の定着により、表現するよさを味わえるような授業を目指してきた。「読む力を身につける」を、言葉の理解を深め、文脈に沿って考えることができる姿とした。しかし、実践を進める中で次のような課題もあげられた。一つは、実態とそれに対する手立てが適切ではなかったこと。課題が難しすぎて児童が追いついていけないことが多かった。授業に参加できない、課題に取り組みない児童もいたことは否めない状態である。もう一つは、教師側から、読み取りの指導法に迷うことが挙げられた。指導事項があいまいになり、指導計画と評価規準の整合性がとれないことがあった。学習指導要領の指導事項を的確に押さえ、児童の実態に合わせて、基礎基本を重視した学習指導を進めていくことが本校にとって大切であると考えた。

以上の実態から、本主題を設定した。「読む力」の基礎的な知識や技能を身につけることで、学習内容の定着を計り、見通しをもって学習に取り組み、表現するよさを味わえるような授業を目指していきたい。さらに全校で指導法を統一することで継続的、発展的に学習を積み重ねて、「読む力」を高めていきたい。指導法は、学習指導要領に示された国語科の「読むこと」の学びのステップと重なる『フレームリーディング』の読みのステップで、取り組むこととした。

3 研究仮説と具体的な手立て

読みの手がかりを示すことで、文章全体のつながりを見いだすことができ、自分の表現に生かすことができるだろう。

「読みの手がかり」とは

どの児童も取り組める学習活動に「数える」という作業がある。学習課題に合わせて、数えるものを教師が考え、児童に示していくものを「読みの手がかり」とした。数えるものは、学習用語を指導したうえで、教材文に合わせて学年で教材研究をしたうえで設定していく。説明文と物語文では異なることも念頭に考えていく。この活動は『フレームリーディング』の手法を参考にしている。

『フレームリーディング』は、「文章の枠組み(フレーム)をとらえる読み(リーディング)の授業である」と筑波大学附属小学校の青木伸生先生が提唱されている。

【フレームリーディング】

文章の枠組み(フレーム)をとらえる読み(リーディング)のこと。

「読みの切り口」を提示することで、文章全体の内容も構造もとらえることのできる力をつけるのが「フレームリーディング」の授業方法。

フレームリーディングで身に付く力は、文章全体をとらえて、およそどのような構成になっているのか、大体どのようなことが書かれているのかを読み取る力。

教師がどのような発問をすれば、子どもは文章全体を丸ごと読むのか、どのような課題設定をすれば、子どもが必然性や必要感をもって読もうとするのか意識して発問・課題設定を行う。

〈指導要領〉との関連 〈フレームリーディング〉(読みのプロセスの3つのステップ)

構造と内容の把握 →【俯瞰した読み】(文章全体を丸ごと読み、フレームをとらえる。)

精査・解釈 →【焦点化した読み】(問題点・疑問点の解決のために必要に応じて詳しく読む)
考えの形成 →【再統合する読み】(詳細な読みを基に、再び全体を見直して読む。)

○3つのステップの手立て

【構造と内容の把握】 数えることでつかむ → 登場人物を数える, 出来事を数える, 会話を数える 等

◎物語文の3つのフレーム(構造)

- ①繰り返し型(大きなかぶ, 三匹の子ブタなど)
- ②事件型(モチモチの木など)
- ③ダブル型(繰り返し+事件 きつねのおきゃくさまなど)

◎説明文の4つのフレーム(構造) → 事例, 形式段落, 意味段落, キーワード, 主語など

^{じけいれつ}
①時系列型(れっしや型)【さけがおおきくなるまで】

^{とうかつ}
②頭括型(スタート型)【はたらく自動車】

^{びかつ}
③尾括型(ゴール型)【言葉と事実・】

^{そうかつ}
④双括型(サンドイッチ型)【ぼくの世界・きみの世界】

【精査・解釈】選ぶことで詳細を読む

物語→中心人物(一番大きく変容する人物)を選ぶ, クライマックスを選ぶなど

説明文の授業づくり→一番を選ぶ(大事な段落・大事な問い・筆者が言いたいこと)

【考えの形成・共有】作品に対するフレームを見直し自分の考えをまとめる。→発表・話し合い

物語文→作品の主題をつかみ, 自分なりに表現する。

説明文→筆者の主張に対して, 自分の考えを表現する。

〈仮説に関わる具体的な手立て〉

(1) 基礎・基本の習得(児童の実態に合わせて指導法を工夫)

- ・言葉や用語の意味や使い方の指導
- ・文章を読むときのきまりや, 方法の指導
- ・音読や視写の工夫した継続的な指導
- ・「話す・聞く」「書く」と関連させる指導

(2) 指導過程や指導方法・評価方法の工夫(教師の教材研究によるもの)

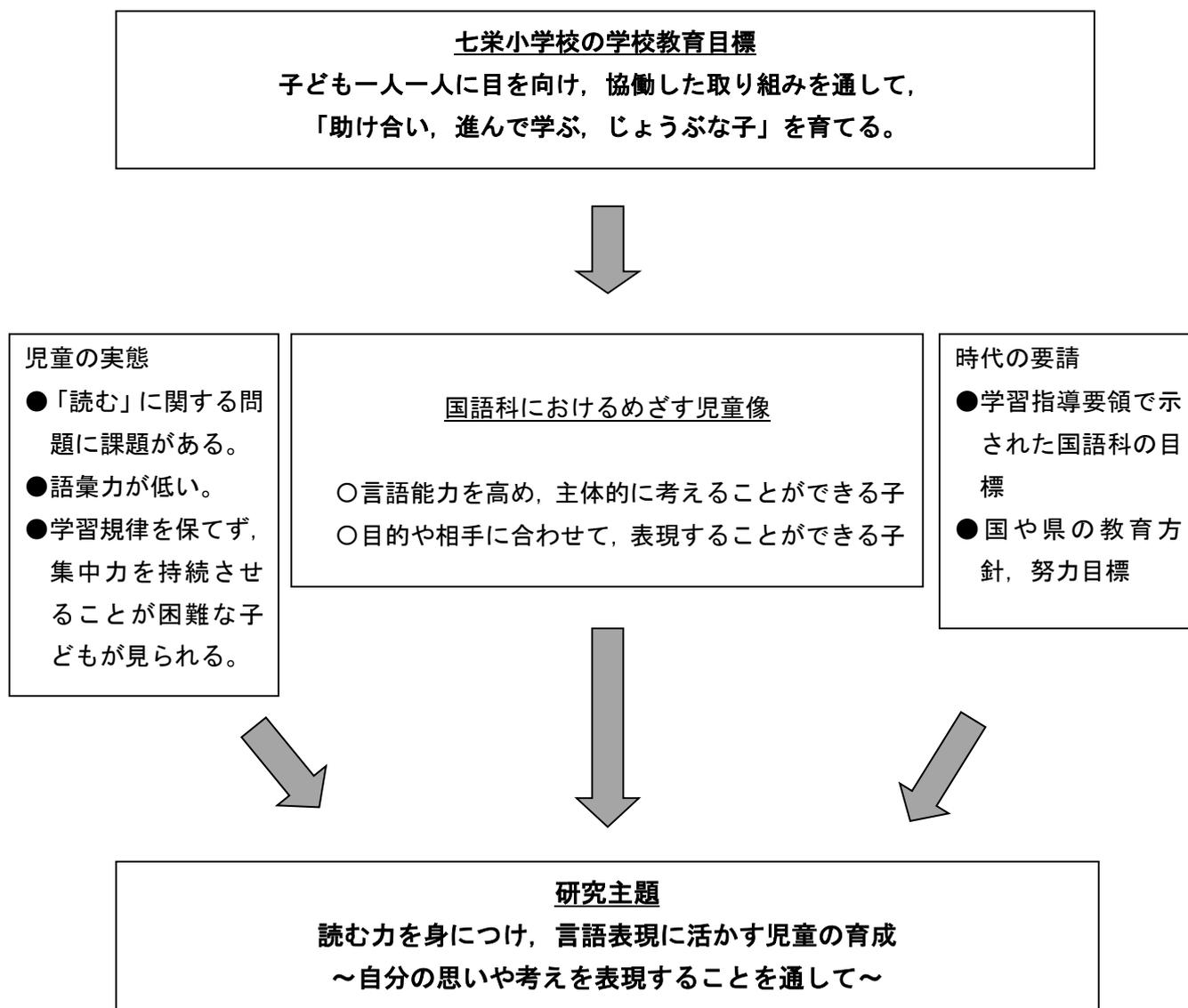
- ・フレームリーディングの理論研修
- ・実態にあった指導計画の見直し
- ・単元のゴールを明確にした学習計画
- ・評価規準の吟味と, 自己評価の方法
- ・発問の工夫

(3) 読書環境の充実

- ・「ブックバンク」(読書日記)
- ・「レッツリード七栄っこ」
- ・読み聞かせ(校内放送・外部ボランティア・図書館)

☆参考文献☆ 「フレームリーディング」でつくる国語の授業 青木伸生 著 東洋館出版社 2013

4 研究構想図



5 実践例

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 宮島 克枝

1 単元名 「おおきな かぶ」でおんどくげきをしよう。

(主な学習材:「おおきな かぶ」教育出版)

2 単元の目標

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〔知識及び技能〕(1)ク
- ・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。

〔思考力, 判断力, 表現力等〕C(1)イ

- ・言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力, 人間性等〕

3 本単元における言語活動

登場人物の順番やせりふの言い方に気を付けて, 「おんどくげき」をする。

関連:〔思考力, 判断力, 表現力等〕C(2)イ

4 単元について

(1) 単元観

本単元は, 上記の単元の目標を踏まえ, 「おんどくげきをしよう」という言語活動を設定した。登場人物や語り手に同化して, 簡単な身振りを伴った音読を, 大型絵本を使って表現する。この教材は, 順番に登場人物が出てきて, かぶを引っ張るという反復の修辞が, 作品の場면을構成し, 話の展開のおもしろさやリズムのよさを作り出している。文字, 文章を読むことと, 登場人物それぞれの個性を感じさせるせりふの言い方など, 表現することを通して, 読むことの楽しさを味わわせたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は, 男子7名, 女子12名, 合計19名である。児童は国語の学習を楽しんでいる。音読や平仮名練習も意欲的に取り組んでいるが, 平仮名が読めない児童は3名いる。文字は覚えているが, 言葉や文として認識し, 文章の内容を理解する段階まではいっていない。自分の考えを意欲的に発表している児童は10名で半分ほどである。相手に伝えようとしているというよりは, 発言したいという1年生らしい態度である。それゆえ友達のと比較したり, 別の意見を求められているときに再度同じ意見を言ったりする様子も見られる。

絵本で読み聞かせをした後, 物語の絵を描いた。登場人物を全員描いた児童は9名, 人間だけを描いた児童は6名である。かぶを抜いている場面は14名, かぶが抜けた場面を描いた児童は5名である。しかし, ほぼ全員が「やっ」という言葉を聞いて抜けたと理解している。このことから「場面の様子や登場人物の行動など, 内容の大体を捉える」ことはできていると

考えられる。音読については「けむりのきしゃ」で調査した結果、5名がつかえながら読んでいる。挿絵や記憶に頼って文章を言っている児童は3名である。

学習を進める上で、児童に指導する用語は「訳」「登場人物」「せりふ」である。文章中で押さえない語句は「とてつもなく」「ところが」「それでも」「やっ」とである。

(3) 指導観

仮説

読みの手がかりを示すことで、文章全体のつながりを見いだすことができ、自分の表現に生かすことができるだろう。

本単元では、変化を伴って発展する反復を丁寧に読み取っていくことが大切だと考える。擬人化された動物と人間との共通性を、「うんとこしょ、どっこいしょ。」のせりふを手がかりに考える。動作化も活用しながら行間を読み、自分の考えや思いを積極的に表現する活動を行うことで、児童が場面の様子や登場人物の行動などを捉えられるようにしていきたい。本教材は物語のフレーム①繰り返し型となる。

【構造と内容の把握】

- ・音読を聞かせ、「大きなかぶ」の絵を描き、初発感想として活用する。
- ・大型絵本を活用し、音読と簡単な身振りが入った音読劇をすることを単元のゴールに設定する。
- ・「あまそうな」「げんきのよい」「とてつもなくおおきな」の言葉を理解させるために、かぶの模型や挿絵を用意する。
- ・「話に出てくる人→登場人物」という言い方をすることを教え、単元を通して繰り返し指導する。
- ・「登場人物」を判断する方法は、「だれのせりふか」を問うことで、確認をする。
- ・「うんとこしょ、どっこいしょ。」のせりふを数えることで登場人物の数を確認する。
- ・「～は、～を呼んできました。」「～が、～を引っ張って」の繰り返しの表現の数を数え、登場人物や場面を押さえ、内容の大体をつかめるようにする。音読の変化や動作化にも生かす。
- ・「ところが」と「やっ」との接続語を押さえ変化に気付かせフレームを捉えるようにする。

【精査・解釈】

- ・板書に、せりふと登場人物のお面を提示し、だれのせりふか意識しできるようにする。
- ・登場人物の順番を、理解しにくい場合は、お面や「かぶ」で視覚的に捉えられるようにする。
- ・「せりふ」「地の文→ナレーション」という言葉を授業の中で使用し、定着を図り音読に生かせるようにする。
- ・「うんとこしょ、どっこいしょ。」のせりふは、登場人物の数に合わせて変化をつけながら、話の流れを意識できるようにする。

【考えの形成】

- ・「出てくる順番は他の順番でもよいか。」と問うことで、叙述をもとに自分の考えを出し合えるようにする。
- ・物語全体を通して「一番頑張っていたのは、誰か」を考え、発表する。
- ・「ところが」「それでも」「まだまだ」「やっ」となどの場面ごとの接続語を押さえることで、抜けなかったときと抜けたときの音読やせりふの読み方に変化を持たせるようにする。

- ・始めに描いた児童の絵を提示し、学習後の自分の読みがどう変化したか振り返る時間を設ける。
- ・工夫して音読した児童の理由を問うことで、他の児童への文章理解、語句理解を図る。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 ((1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C (1)イ)	①進んで登場人物の順序と行動を考え、学習の見通しをもって、工夫した音読で音読劇をしようとしている。

6 指導と評価の計画 (全7時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第 1 次	1	○大型絵本の読み聞かせを聞き、物語の絵を描き内容の大体を捉える。 ○単元のゴール「おんどくげき」をすることを 知る。	・登場人物の表情や行動に注目して、絵が描けるようにする。 ・学習のねらいと「おんどくげき」の内容を具体的に示し、学習の見通しがもてるようにする。	[思・判・表①] <u>聞き方・描いた絵</u> ・場面の様子や、登場人物話の結末を捉えている。
	2	○範読を聞きながら、繰り返し表現のリズムをつかみ、音読練習をする。	・せりふや繰り返しの表現をリズムカルに読み、楽しんで音読できるようにする。	[知・技①] <u>音読</u> ・範読を聞きながら、語のまとまりに気を付けて正しく音読している。
第 2 次	3 本 時	○登場人物を確認する。	・挿絵や、文章、せりふの数などを手掛かりに確認できるようにする。	[思・判・表①] <u>ノート・発言</u> ・6人の登場人物の順番とせりふを捉えている。
	4	○登場人物の順番を確かめ、かぶを抜く様子を読み取る。	・挿絵や動きを表す文から、6人の登場人物の順番を確認する。 ・だれのせりふかを確認し音読が工夫できるようにする。	[思・判・表①] <u>ノート・発言</u> ・6人の登場人物の順番とせりふを捉えている。
	5	○全文を読み返し、物語	・順番の変化や誰が一番	[思・判・表①]

		の面白さについて、叙述をもとに自分の考えを出し合う。	かを考えることで、個々の登場人物を意識させ、自分の考えをもてるようにする。	<u>ノート・発言</u> ・物語の面白さについて、自分の考えとその理由を言うことができる。
第三次	6	○3人グループで練習し、接続詞やせりふを工夫して音読する。	・反復表現や接続語に着目させ、表現方法を考えられるようにする。	〔主①〕 <u>音読・振り返りカード</u> ・進んで登場人物の順序と行動を考え、工夫した音読で音読劇をしようとしている。
	7	○グループごとに音読の発表をする。 ○発表して感じたことをまとめる。	・他のグループの発表を聞いて感想を伝え合い、達成感を得られるようにする。	

7 本時の指導

(1) 評価規準

・6人の登場人物の順番とせりふを捉えている。 [思考力, 判断力, 表現力等]

(2) 展開 (3/7)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>【見出す】</p> <p>1 本時の学習と学習のめあてを知る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">でてくるひとは、だれかな</p> <p>・全文を音読する。</p>	・挿絵を掲示しておく。	学習計画表 児童が描いた絵 挿絵
10	<p>【自分で取り組む】</p> <p>2 「登場人物」だと思う人を数え自分の理由をつけて発表する。</p> <p>・3人(おじいさん, おばあさん, まご)</p> <p>・6人(3人と犬・ねこ・ねずみ)</p> <p>・7人(3人と犬・ねこ・ねずみ・かぶ)</p> <p>・3人の理由は人だから。</p> <p>・6人は犬たちも引っ張っているから。</p> <p>・かぶが題名だから。</p>	<p>・「登場人物」の用語について指導する。</p> <p>・視覚的にわかるようにせりふの「」を目印とする。</p> <p>・せりふに線を引くことで、6箇所あることを確認する。</p>	
15	<p>【広げ深める】</p> <p>3 「うんとこしょ、どっこいしょ。」のせりふをだれが言っているのか確かめ、かぶのせりふがあるか、確認する。</p> <p>・一つ目はおじいさん, 二つ目はおばあさんも入るかな, ・・以下ねずみまで。</p>	<p>・板書にせりふと、挿絵を対応させて提示していくことで、6個のせりふがあることを捉えさせる。</p> <p>・かぶは、せりふがなく自分の</p>	ノート

8	<ul style="list-style-type: none"> ・かぶには、せりふがない。 ・登場人物は6人だ。 <p>【まとめあげる】</p> <p>4 登場人物についてまとめる。</p>	<p>意思で動いていないことに気付かせ、登場人物の定義を押さえていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○教科書への記入・発言 [思・判・表①]</p> <p>・挿絵とせりふを示し、対応させ助言する。</p> </div>	
<p>とうじょうじんぶつは、(おじいさん おばあさん まご いぬ ねこ ねずみ) このろくにん。</p>			
5	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物にはせりふがある。 ・せりふは「うんとこしよ、どっこいしよ。」で6個ある。 <p>5 全文を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を意識しながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物が増えていく様子を掲示物で示し、声の大きさを変える、または友達と音読することで体感させていく。 	
2	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物について、わかったことを発表する。 		

(3) 板書計画

○ま

とうじょうじんぶつはこのろくにん

最後の場面の挿絵

せりふはむっつ

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

○学

おおきなかぶ

でてくるひとは、だれかな

でてくるひと↓とうじょうじんぶつ

- ・3にん・6にん
- 7にん

おじいさん

おばあさん

まご

いぬ

ねこ

ねずみ

○せりふはいくつですか

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

「うんとこしよ、どっこいしよ。」

かぶ

〈仮説に関わる具体的な手立て〉

(1) 基礎・基本の習得

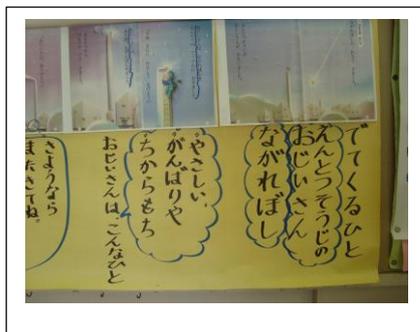
- ・言葉や用語の意味や使い方の指導

「登場人物」の用語の指導

既習事項「でてくる人」をもとに考えてから用語を知らせた。挿絵・会話文・せりふ「」など視覚的に捉えやすいものを手がかりとした。

単元の最初に指導

単元を通して繰り返し使うことで定着を図った。



- ・文章を読むときのきまりや、方法の指導

叙述をもとに読み取る

挿絵や本文のどの言葉、文から考えた発言するときに示すように指導した。教科書に線と引いたり、丸で言葉を囲んだりした。

せりふの表記と意味

繰り返し指導し、文章中から見つけ出せるようにした。

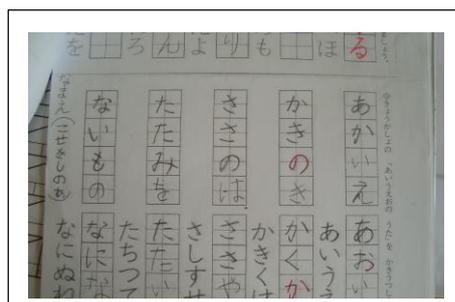
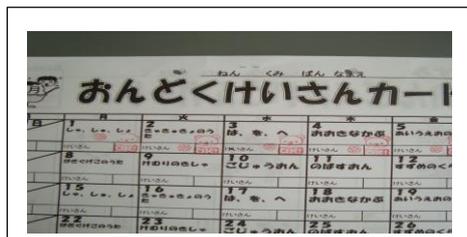
主語述語

「誰が 何をした」繰り返しの表現を押さえ定着を図った。

「おじいさんは、～よんできました。」「おばあさんが、～ひっばって」



・音読や視写の工夫した継続的な指導



家庭の練習と授業での音読テスト

音読カレンダーを使い、自主練習を促している。課題とした教材文が保護者の評価で「◎」が増えたのを確認した後、授業で音読テストを一人ずつ実施する。合格した教材文は教科書にシールを貼り意欲付けを図る。

視写と音読

音読練習後、その教材文を視写する。15分間、視写する。速さに違いは出てくるが、丁寧さと正確さを重視している。

・「話す・聞く」「書く」と関連させる指導

登場人物へ手紙を書く、家の人へおもしろかったところを紹介するなど書く活動を少しでも取り入れる。また、テーマを出して、グループで話し合う活動を取り入れる。時間は短い回数を重ねることで抵抗感を無くしていく。

(2) 指導過程や指導方法・評価方法の工夫

・フレームリーディングの理論研修

【俯瞰】→構造と内容の把握

場面の様子や、登場人物の行動を基に内容の大体を捉える。

「数える」という読み取りの切り口を活用した。登場人物の人数とせりふの数を数え同数であることから登場人物を確認した。「ひっばって」「よんできました」の言葉の数も数えて、物語の内容と繰り返しの面白さに気付くことができた。

【焦点化】→精査・解釈

登場人物の行動や会話について、具体的に思い描きながら、豊かに想像する。

誰が何をしたのかを押さえることで、登場人物の順番と会話を想像することができた。挿絵やお面等を使いながら、その場の臨場感を味わい想像しやすいようにした。

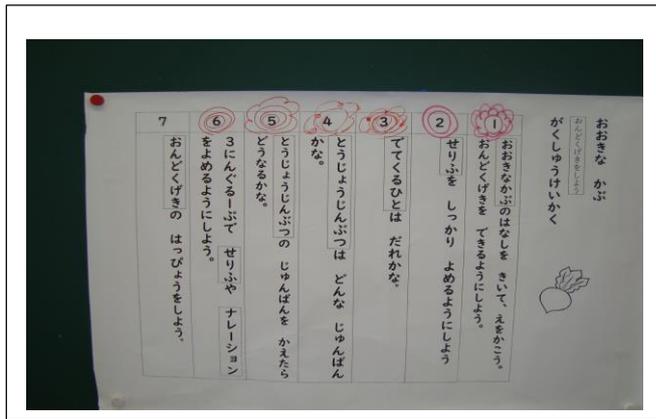
誰のせりふかを確かめていくうちに、せりふを言う人数が増えることを理解し、音読にも生かすことができた。

【再統合】考えの形成・共有

文章を読んで児童一人一人がおもしろいな、なるほどと気付く

「一番、頑張ったのはだれか」「ひっばる順番はこれでいいか」など自分の経験と文章から考えた。人間から動物に変わった違和感が焦点になった。音読しながら動作化を取り入れると、話し合いでは分からなかったことに気付く児童もいて、考えの修正をする意見もでてきた。

・実態にあった指導計画の見直し



初発の感想

どの児童も表現しやすい絵で表す。図工と関連させ、時間も短縮できる。絵をみながら児童に感想を話してもらい、内容の理解とどの部分に面白さを感じているのか把握できた。文字に抵抗がある児童も、進んで取り組んでいた。

「登場人物」に絞って単元を流した。せりふに着目させて内容を把握するのに効果的だった。

音読劇をすることで、読み取った感想と別の感想を持つ児童がいた。読み取りの効果高めることができた。

・発問の工夫

子どものつぶやきから、登場人物のきまりを深めていく

T「登場人物は何人ですか？」

C「6人」「でも何人ってきいているよ。」「人間だよ。」

T「登場人物ってなんだっけ？」

C「出てくる人」

T「動物は、はいりますか？」

C「出てくる人で、話した言葉があるひとだよ。」

C「じゃあ、犬もねこもねずみも。」

→6人と答えを導いた。

他の答えが出なかったため、登場人物の意味をさらに押さえるために補助発問をだした。

T「かぶもあるよ。」(挿絵 おじいさん おばあさん まご 犬 猫 ねずみ かぶを出す)

C「おおきなかぶだもんね。じゃあ7人かな」

C「だいたいに出てきても、ちがうよ。」「けむりのきしゃもそうだった。」

C「かぶってはなしていないよ。」「かぶは登場人物じゃない。」

せりふの表示を変えてある理由を問うことで人数を確認させる。

T「(せりふを書いた紙を掲示しながら) なにかがかわっていくよ、なぜだろう？」

C「おおきくなった。」「一人増えたよ。」「せりふを言う人数がわかる。」「大きさもわかる。」



第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 長谷川 和博

1 単元名 もんしろちょうの秘密をおうちの人に伝えよう

(主な教材：花を見つける手がかり 教育出版)

2 単元の目標

- ・主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。 [知識及び技能] (1) カ
- ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2) ア
- ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉えることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ア
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
- ・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

もんしろちょうが花を見つけるための秘密についてタブレットを使ってまとめ、保護者に伝える。

関連：[思考力、判断力、表現力等] C (2) ア

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、「花を見つける手がかり」を読んでわかったことをタブレットでまとめ、保護者に伝えるという言語活動を設定した。実験のねらいや結果、結論、そして筆者の主張を簡潔にまとめることで、内容理解を深めるとともに、文章を要約する力を養っていく。

『花を見つける手がかり』は、「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という疑問に対し、「花の色、形、におい」と答えを予想したうえで、問いと実験を繰り返しながら答えをしぼり込んでいき、結論にいたる過程を表している。読者も一緒になって問題を追及していくおもしろさを感じながら、考えの筋道を追体験できる文章である。実際の考えの筋道に着目して読むことを通して、論理的思考力を伸ばしていけるようにする。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、男子16名、女子14名、合計30名である。アンケート調査では、国語科の授業に対して「楽しい」、「どちらかというと楽しい」と感じている児童が9割程度で、多くの児童が意欲的に国語科の学習に取り組むことができている。その一方で、国語に対して強い苦手感や嫌悪感をもっている児童もいる。また、外国籍等で国語力自体が低く、学習に取り組むことができない

い児童もいる。ここで学習する「説明文」については苦手と答える児童が3割程度いる。その理由として、「意味が分からなくて途中であきてしまう。」と感じている児童がいた。「物語文」は「読んでいてわくわくする」「おもしろい」など、肯定的な意見が多く見られた。

主語述語を問う問題では、正答率は15%ほどで、ほとんどの児童が主語と述語について理解をしていないことが分かった。形式段落も25%ほどの正答率なので、しっかりと確認をしてから学習を進める必要がある。学習の定着度や学習に取り組む際の集中力の差が大きく、個別に支援が必要な児童が多くいる。

(3) 指導観

仮説

読みの手がかりを示すことで、文章全体のつながりを見いだすことができ、自分の表現に生かすことができるだろう。

- ・チョウの実験について順序良く説明し、最後にまとめる尾括型のフレームになっている。
- ・導入で形式段落を数えたり、実験の回数を数えたりするなど、どの児童も取り組みやすい活動を通して、文章の全体のつながりを見い出していく。

【構造と内容の把握】

- ・形式段落と実験の回数を数えて、フレームをつかむ。段落相互の関係に着目し、文章の構造を捉えられるようにする。
- ・形式段落の指導では、一文字下がりを画面で映し出し、形式段落を視覚的に捉えさせる。また、一字下がりに○を付けさせ、数を確認したのち、○の中に番号を入れるようにする。

【精査・解釈】

- ・一番大事な問いを選び、その答えとなるものを考えていく。
- ・主語が省略されている文は、前後の文脈から推察する時間を取り、確認するようにする。

【考えの形成】

- ・もんしろちょうが花を見つけるための秘密についてタブレットを使ってまとめる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①主語と述語の関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。 ((1)カ)	①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉えている。(C(1)ア)	①進んで、相手に伝わるように大事な文章を探し、学習の見通しをもってまとめようとしている。
②考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。 ((2)ア)	②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 (C(1)ウ)	

6 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	○学習の見通しをもつ。 ・段落の数を数える。 ・実験の回数を数える。	・数えることを通して、文章のおおまかな構成を確かめるようにする。	
	2	○問いの文を見つけ、一番大きな問いを選ぶ。	・問いの文を見つける活動を通して、これからどのようなことを読んでいくのか考え、学習の見通しをもたせる。	[知・技①] <u>発言・ノート</u> ・それぞれの段落の役割について考えている。
第二次	3	○③～⑧段落を読み、一つ目の実験方法、結果結論をノートにまとめる。	・問題と実験からわかった事実、筆者の出した結論との関係に気を付けて文章を読ませる。	[思・判・表①] <u>発言・ノート</u> ・実験内容とわかったことなどについて叙述を基に捉えている。
	4	○⑨⑩段落を読み、二つ目の実験方法、結果、結論をノートにまとめる。	・問題と実験からわかった事実、筆者の出した結論との関係に気を付けて文章を読ませる。	[思・判・表①] <u>発言・ノート</u> ・実験内容とわかったことなどについて叙述を基に捉えている。
	5	○⑪～⑬段落を読み、三つ目の実験方法、結果結論をノートにまとめる。	・問題と実験からわかった事実、筆者の出した結論との関係に気を付けて文章を読ませる。	[知・理②] <u>発言・ノート</u> ・実験内容と筆者の考えについて理解している。
	6 本 時	○最後の段落には「もんしろちょう」という言葉がないことから、最後の段落の役割について考え、文章全体のまとめをする。	・筆者の言いたいことについて、どのように書かれてきたか考えるようにする。	[思・判・表①] <u>発言・ワークシート</u> ・筆者の考えについて叙述を基に捉え、文章全体をまとめている。

第三次	7 8 9	○もんしろちょうが花を見つけるための秘密について、タブレットを使ってまとめる。	・順序立てて、わかりやすくなるように工夫しながらまとめられるようにする。	<p>[思・判・表②] <u>発言・タブレット</u></p> <p>・中心となる語や文を見つけて要約している。</p> <p>[主①] <u>発言・タブレット</u></p> <p>・相手に伝わるように大事な文章を探し、分かりやすくまとめようとしている。</p>
-----	-------------	---	--------------------------------------	--

7 本時の指導

(1) 評価規準

・筆者の考えについて叙述を基に捉え、文章全体をまとめている。

[思考・判断・表現]

(2) 展開 (6 / 9)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
10	<p>【見出す】</p> <p>1 本時の学習のめあてを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の言いたいことは何なのか考える。 ・それぞれの意味段落で「もんしろちょう」という言葉が出てくる回数を数える。 ・最後の⑮段落には「もんしろちょう」はないことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「もんしろちょう」について書かれた文だが、「もんしろちょう」について書かれていないところがあることに気付かせる。 ・表を用意しておき、記録しやすいようにする。 ・意味段落がわかるような表にし、最後の⑮段落には「もんしろちょう」がないことに気付けるようにする。 	ワークシート
10	<p>【自分で取り組む】</p> <p>2 ⑮段落の役割について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もんしろちょうの話からこん虫の話になっている。 ・筆者の言いたいことが書かれている。 ・「考え方のすじみちを立てて、実験と観察を重ねる」→「こん虫の生活の仕組みをさぐることができる」、が筆者の 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語に着目させ、何について書かれているのか考えさせる。 ・ここまでの実験を通して筆者は、「何も語らないこん虫の生活の仕組みを探れる」ということを考えたということに気付かせる。 	

	<p>言いたいことだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>考え方のすじみちをどのように書いているか考えよう。</p> </div>	
20	<p>【広げ深める】</p> <p>3 「考え方のすじみち」を思い出し、内容をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ぞうの重さを量る』の学習を振り返り、「考えのすじみち」を思い出す。 ・全文を振り返りながら、どのように考えを進めていったのか表にまとめる。 ・「問題に会う、つかむ→解決の難しさを知る→解決に取り組む」という考えのすじみちにそってまとめる。 	<p>掲示物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までにまとめた表を頼りにまとめられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ワークシート〔思考・判断・表現②〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートや掲示物で振り返り、まとめるよう助言する。 </div>
5	<p>【まとめあげる】</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習で、思ったことや気付いたことをノートにまとめる。 	

(3) 板書計画

⑮段落	実験③	実験②	実験①	解決に取り組む	解決の難しさ	問題に出会う つかむ	<p>⑮</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>考え方のすじみちをどのように書いているか考えよう。</p> </div> <p>こん虫の生活の仕組みをさぐることができる</p>	<p>○⑮段落にはなぜ「もんしろちよう」がないのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もんしろちようの話からこん虫の話になっている。 ・筆者の言いたいことが書かれている。 <p>考え方のすじみちを立てる</p> <p>← 実験と観察を重ねる</p>	<table border="1" style="float: right;"> <tr><td>①</td><td>1</td></tr> <tr><td>②</td><td>2</td></tr> <tr><td>③</td><td>2</td></tr> <tr><td>④</td><td>2</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>3</td></tr> <tr><td>⑥</td><td>3</td></tr> <tr><td>⑦</td><td>3</td></tr> <tr><td>⑧</td><td>3</td></tr> <tr><td>⑨</td><td>4</td></tr> <tr><td>⑩</td><td>4</td></tr> <tr><td>⑪</td><td>5</td></tr> <tr><td>⑫</td><td>5</td></tr> <tr><td>⑬</td><td>5</td></tr> <tr><td>⑭</td><td>6</td></tr> <tr><td>⑮</td><td>7</td></tr> </table> <p>花を見つける手がかり</p>	①	1	②	2	③	2	④	2	⑤	3	⑥	3	⑦	3	⑧	3	⑨	4	⑩	4	⑪	5	⑫	5	⑬	5	⑭	6	⑮	7
	①	1																																					
②	2																																						
③	2																																						
④	2																																						
⑤	3																																						
⑥	3																																						
⑦	3																																						
⑧	3																																						
⑨	4																																						
⑩	4																																						
⑪	5																																						
⑫	5																																						
⑬	5																																						
⑭	6																																						
⑮	7																																						
筆者の言いたいこと	色を手がかりにして花を見つける。	においではなく、色か形にひかれている。	むらさきの花によく集まる。	もんしろちように聞いてもわからない。	もんしろちようは何を手がかりにして花を見つけるのか。	もんしろちようは何を手がかりにして花を見つけるのか。																																	

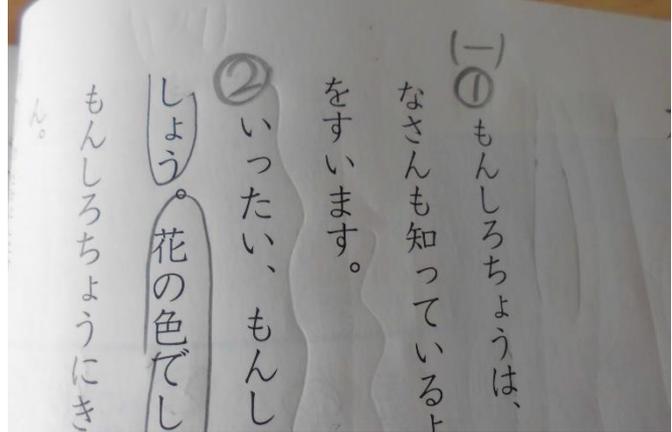
〈仮説に関わる具体的な手立て〉

(1) 基礎・基本の習得

- ・ 言葉や用語の意味や使い方の指導

形式段落の指導

一文字下がりを画面で映し出し、形式段落を視覚的に捉えさせる。また、一字下がりに○を付けさせ、数を確認したのち、○の中に番号を入れるようにした。



- ・ 文章を読むときのきまりや、方法の指導

主語や指示語

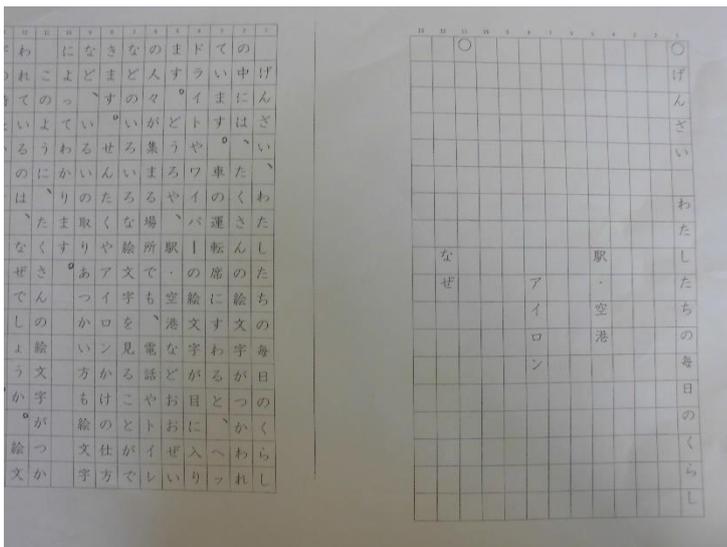
主語が省略されていてわかりにくい文章や、読み取り上、大切な指示語については、全体で確認し、きちんと内容把握ができるようにした。

- ・ 音読や視写の工夫した継続的な指導

音読カード

カードを使い、家庭での音読学習を促している。また、丸読み等を意図的に取り入れ授業の中でチェックをした。

月・日	読んだところ	大きな声で	はっきりと	速さを考えて	気持ちをこめて
・					
・					
・					
・					
・					
・					
・					
・					



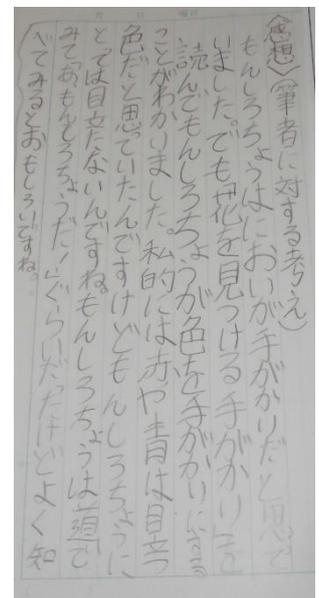
視写

全校で視写に取り組む時間を設定し、継続して取り組んでいる。4年生は10分間で250字程度を目標としている。

・「話す・聞く」「書く」と関連させる指導

「書く」活動

読み取りの後に筆者の考えに対する自分の意見を書く活動を取り入れた。思ったことやもっと知りたいことなどを書くことができた。



(2) 指導過程や指導方法・評価方法の工夫

・フレームリーディングの理論研修

【俯瞰】

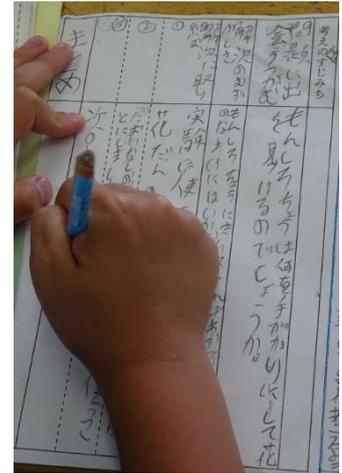
形式段落を数えたり、実験の回数を数えたりするなど、どの児童も取り組みやすい活動を通して、文章の全体のつながりや文章の構造を捉えられるようにした。最後にまとめがくる、尾括型（ゴール型）の説明文だということを確認した。児童は、「数える」というわかりやすい活動なので、意欲的に取り組むことができた。

【焦点化】

「でしょうか」や「でしょう」という問いの文末に気を付けて読み、問いの文を数え上げた。その際、推量の「でしょう」を挙げてしまう児童もいたので、全体で確認し気を付けさせた。そして、一番大事な問いを選ぶ活動をした。「いったい、もんしろちょうは、何を手がかりにして、花を見つけるのでしょうか。」を選び、解決のために3回の実験を詳しく読み取っていくようにした。

【再統合】

『ぞうの重さを量る』の学習で使った「考え方のすじみち」に沿って『花を見つける手がかり』の全体を見直して読んだ。改めて表にしてまとめることで、全体のつながりを意識することができた。



・実態に合った指導計画の見直し

『ぞうの重さを量る』の学習で使った「考え方のすじみち」に沿って『花を見つける手がかり』の学習を読み直すことで、尾括型（ゴール型）のフレームであることを意識させることができた。

ぞうの重さを量る

考えるすじみちをつかむ

① 問題に出会う。

② 問題をつかむ。

③ 解決のすじみちを知り。

④ 解決に取り組み。

⑤ 解決のすじみちを知り。

*最後に、石の重さを量る。

*次に、ぞうの代わりに。

*まず、はかりの代わりに。

みなさんは、動物園でぞうの重さを量るのに、いったい何キログラムの中国にも、同じように、呉という国の王様は、その大きさにおどろきました。それが、この時代の重さばかりかてんびんばかりか、のせることができると、王様のむすこのぞうの重さを量る方法を

と、言いました。

そこで、くわしく聞くことにしました。

「まず、ぞうを大きな船にのせて、船を川に浮かべ、石の重さを量ります。次に、ぞうをおろして、船に乗った時につけた印まで、石の重さを量ります。最後に、船につんだ石の重さを合計すると、約四千五百キログラムです。」

まず

次に

・発問の工夫

補足的発問

- T 「主語は何ですか？」
- C 「農工大学の人たち」
- T 「農工大学の人たち以外はだめなの？」
- C 「ちがうな」
- 「私たち」と導いた。

1 単元名 筆者の考えを読み、説明の仕方を考え、学習感想文にまとめよう

(主な教材：雪は新しいエネルギー 教育出版)

2 単元目標

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ア
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

筆者の主張を読み、説明の仕方や雪エネルギーの利用について、学習感想文にまとめる。

関連：[思考力、判断力、表現力等] C (2) ア

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、上記単元目標を踏まえ、筆者の主張を明らかにし、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について自分の考えをまとめる言語活動を設定した。

主な教材「雪は新しいエネルギー」は、地球温暖化やその原因となる化石エネルギー問題に対し、雪エネルギー利用による解決を主張する文章である。雪の冷熱エネルギーの利用について、具体的な例を複数取り上げたり、図表を用いたりしながら説明している。筆者は説明に加え、雪の保存という課題や今後の課題にも触れることで、自らの主張に説得力をもたせている。

雪エネルギーの利用に対する筆者の主張を、根拠となる事例を整理しながら読むことを通して検討していくことが大切になる。文章の要旨を捉えた後に、筆者の説明の仕方やその背後にある筆者の意図を考える。最後に自分の考えを文章にまとめ、友達と交流することによって児童自らの考えを深めていくことができる。と考える。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、男子16名、女子18名、合計34名である。アンケート調査では、8割の児童が、国語科の授業に対して「楽しい」、「どちらかという楽しい」と感じている。しかし、「説明文」について、苦手と答える児童が5割おり、その理由として、「難しい言葉が多くて意味がわからない。」と感じている児童がいる。

主語述語を問う問題では、正答率が29%ほどで、定着していないことが分かった。形式段落の正答率は64%であった。学習の定着度や集中力も個人差が大きい。

児童はこれまで、5年「言葉と事実」で事実と感想、意見などの関係を押さえながら文章全体の構成を捉える学習をしてきている。事前テストを実施したところ、要旨を的確に捉えることができていた児童は、39%であった。29%の児童は、要旨を概ね理解しているものの、事実を押えていないことや、筆者の一番伝えたいことをまとめていないことがわかった。さらに、32%の児童が要旨をとらえることができていないことがわかった。

(3) 指導観

仮説

読みの手がかりを示すことで、文章全体のつながりを見いだすことができ、自分の表現に生かすことができるだろう。

苦手意識を感じている児童が多いという実態から、説明文のハードルを低くするために、教科書の図や写真を見せながら範読をする。教師の範読を聞くことで、耳から言葉を受け入れられるようにし、おおよその内容をつかませていきたい。次に、文章に慣れさせるために各自で音読をさせる。読ませ方も「追い読み」「一人読み」「役割読み」等さまざまな読み方で全文を通読させていきたい。数量関係をつかませるため、身近なものに置き換え、内容を把握させていく。

要旨をとらえさせるために、主語と述語、「さらに」等のつなぎ言葉や文末表現に目を向けさせ、段落相互の関係を押さえていきたい。

意味段落を分ける際は、要点を並べて判断材料となるようにする。発問を工夫したり、数を数える活動を取り入れたりしながら、読むことに関係なく全員参加できるようにしたい。扱う問題が複雑さはらむため、解決に向かって一直線に展開する文章ではないが、尾括型（ゴール型）のフレームになっていることを確認する。学習用語（主張／事例／構成／長所／短所／課題／分析）を押さえながら、読み進めていけるようにしたい。また、他教科との関連も図っていきたい。

（理科「生物と地球環境」家庭科「持続可能な社会を生きる」）

【構造と内容の把握】

- ・単元のゴールである学習感想文の教師のモデル文を示すことで学習の見通しをもたせる。
- ・図や写真を活用し、結びつけながら教師の範読を聞くことでおおよその内容をつかませる。
- ・要点を並べていくことで意味段落分けをし、フレームをつかむ。
- ・筆者が一番伝えたいことはどの意味段落に書かれているか考えさせる。

【精査・解釈】

- ・雪エネルギーの利用事例はいくつあるか数を数えさせる。
- ・意味段落の相互の関係に着目し、わかったことを短い文でまとめる。
- ・雪エネルギーの長所を述べている段落に対し、短所を述べている段落に視点をあてる。課題を取り上げていることに気付かせ、筆者の主張にどのような効果をあたえているか考えさせる。

【考えの形成】

- ・一番大事だと思う段落とその理由を考え、筆者の主張に対して、納得できるかを問う。
- ・筆者の考えや説明の仕方について、これまでの振り返り（ノート）を参考にしながら、考えたこと

を学習感想文にまとめ、友達と交流する。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。 (2)イ</p>	<p>① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 (C(1)ア)</p> <p>② 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C(1)ウ)</p>	<p>① 粘り強く、筆者の主張と取り上げた事例の関係、課題などを検討し、学習の見通しをもって、筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えたことを文章にまとめようとしている。</p>

6 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	<p>○学習感想文を書くことを確認し、学習の見通しをもとう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範読を聞く。 ・感想を書く。 ・形式段落に分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の学習感想文を示すことで、学習の見通しをもたせる。 ・図や写真と結びつけながら、範読を聞き、おおまかな内容をつかめるようにする。 ・筆者が一番伝えたいことは、どの意味段落に書かれているかを話し合わせる。 	<p>〔思・判・表①〕 <u>発言・ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の伝えたいことを考え、文章を七つの段落に分けようとしている。
	2	<p>○7つの意味段落に分けよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の提示した問題を見つける。 ・学習用語の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの意味段落に分けられることを伝え、「さらに」「これらの」等のつなぎ言葉に視点をあて、意味段落を考えられるようにする。 	

第二次	3	○筆者はどのようなことが問題だと言っているのだろうか。 ・提示された問題と筆者の考えを1, 2段落からまとめる。	・「何が問題になっているのか」「雪はエネルギー」とはどのようなことか, 筆者の伝えたいことを短い言葉でまとめさせる。	[思・判・表①] <u>発言・ノート</u> ・「雪エネルギー」とはどのようなことか, 何が問題なのか, 筆者の伝えたいことを把握している。
	4 本時	○雪エネルギーはどのように利用されているだろう。 ・事例の数を数え, 雪エネルギーはどのように利用されているか読み取る。 ・利用の仕方にはどんな良さがあるか3, 4段落からまとめる。	・それぞれの事例とその利点を整理できるようにする。 ・事例の順番には筆者のどんな意図があるか考えさせる。 ・雪エネルギーの利用の仕方と良さを短い言葉でまとめさせる。	[知・理①] <u>発言・ノート</u> ・雪エネルギーがどのように利用されているか事例とその利点を整理している。
	5	○筆者が課題点を取り上げたのは, なぜだろうか。 ・取り上げられている課題に対しての筆者の主張を6, 7段落からまとめる。	・課題を取り上げている段落に気付かせ, 主張にどんな効果があるか考えさせる。 ・課題に対する筆者の意見を短い言葉でまとめる。	[思・判・表②] <u>発言・ノート</u> ・筆者の論の進め方に着目し, 課題を取り上げた意図について自分の考えをまとめている。
第三次	6	○筆者の考えや説明の仕方について, 考えたことを発表ノートにまとめ, 友達と交流しよう。 ＜ポイント＞ ・読む前と読んだ後 ・その理由や自分の経験 ・筆者の主張や説明の仕方に対する自分の意見	・一番大事な段落はどこか話し合う。 ・筆者の主張の組み立て方や説明の仕方について話し合い, それをもとに自分の考えを学習感想文にまとめることができるようにする。 ・友達と交流することで, 学習を振り返ったり, 自分の考えを深めたりできるようにする。	[主①] <u>発言・学習感想文</u> ・今までの学習を生かして, 筆者の説明の仕方や雪エネルギーの利用について考えをまとめようとしている。

7 本時の指導

(1) 評価規準

- ・雪エネルギーがどのように利用されているか, 事例とその利点を整理している。

[知識・理解]

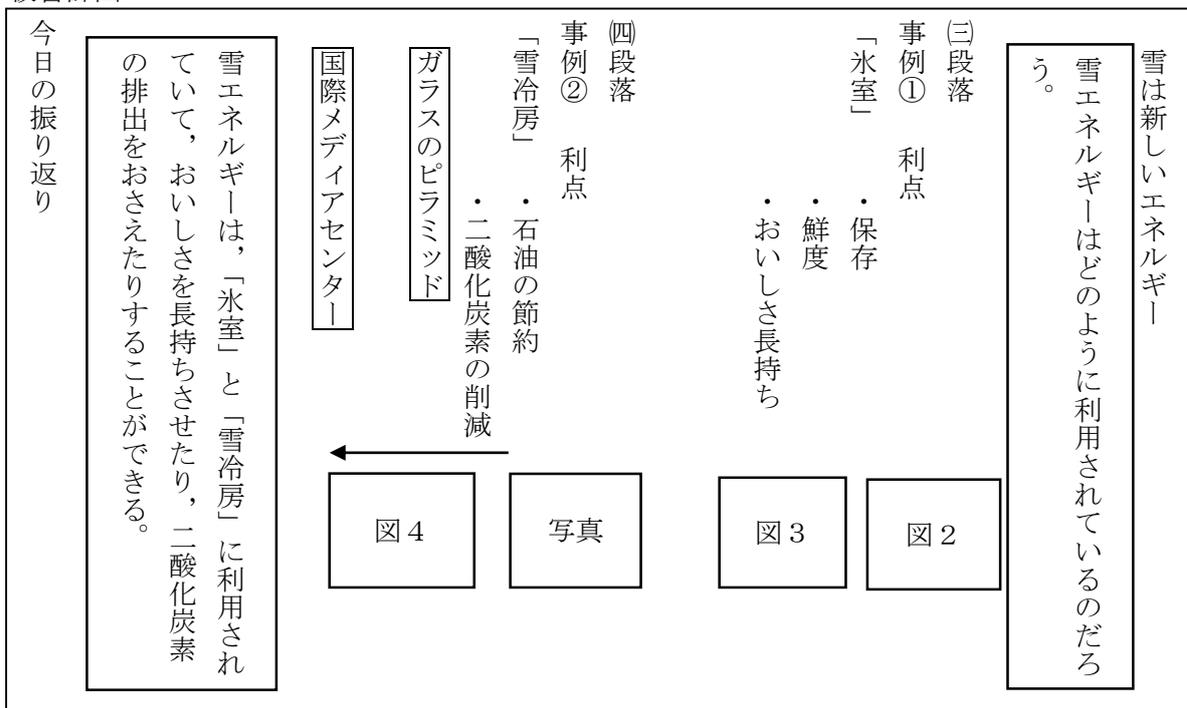
(2) 展開 (4/6)

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
2	<p>【見出す】</p> <p>1 本時のめあてを確認する。</p>		<p>掲示物</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>雪エネルギーはどのように利用されているのだろう。</p> </div>			
10	<p>【自分で取り組む】</p> <p>2 雪エネルギーの利用事例はいくつあるか数を数える。</p> <p><利用の仕方を述べている表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～<u>利用</u>されています。」 ・「～<u>利用</u>しています。」 ・「～<u>利用</u>しました。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪エネルギーをどのように利用しているかに着目させるために、文末表現「～利用されています。」「～利用しています。」等に線を引かせる。 ・2つ以上と答えている児童に対しては、実験を事例と捉えている可能性が高いため、何を納得させるための実験かを考えさせる。 	<p>表</p>
5	<p>3 雪エネルギーの利用の仕方はいくつあったか全体で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を話し合わせ、事例は「氷室」「雪冷房」の2つであることを捉えさせる。 	<p>資料 図2 図3</p>
10	<p>4 事例ごとに利点を表にまとめる。</p> <p><利点を取り上げている表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～<u>できる</u>ことがわかりました。」 ・「～<u>できました</u>。」 ・「～<u>おさえる</u>ことが<u>できます</u>。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・整理しやすいように、表を用意しておく。 ・資料(図2～4)と結びつけながら考えられるようにする。 ・文末表現だけでなく、なにができるのか主語にも着目させる。 	<p>写真 図4</p>
8	<p>【広げ深める】</p> <p>5 利用事例ごとの利点をグループで意見交換する。</p> <p>6 雪エネルギーの利用の仕方とその利点にはどのようなものがあったか全体で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流して、新たにわかったことや気付いたことをノートに書き加えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○ノート・表 〔知識・理解①〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～できました。」「～できます。」の文末表現に線を引き、利用例ごとの良さを捉えられるようにする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「雪冷房」での施設の規模を比べさせ、筆者の意図をつかませる。 	

5	<p>【まとめあげる】</p> <p>7 雪エネルギーがどのように利用されているのかわかったことや考えたことをまとめる。</p>	<p>・キーワードとなる言葉を使い、自分の言葉でまとめるようにする。</p>
5	<p>8 筆者はなぜ雪エネルギーの利用例や利点を取り上げたのか考える。</p> <p>・事例→利点→今後の可能性？</p>	<p>・利点を述べた筆者の意図を考えさせる。</p>

雪エネルギーは、「氷室」と「雪冷房」に利用されていて、おいしさを長持ちさせたり、二酸化炭素の排出をおさえたりすることができる。

(3) 板書計画



〈仮説に関わる具体的な手立て〉

(1) 基礎・基本の習得

・言葉や用語の意味や使い方の指導

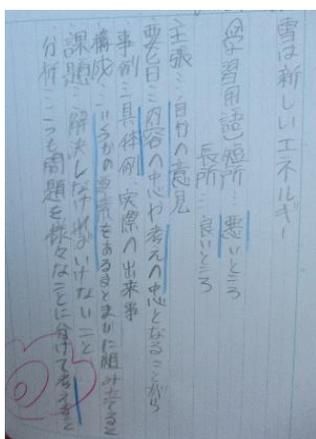
学習用語の指導

初発の感想を書く際、分からない語句に印をつけ、前後の文から意味を推測させたり、辞典で意味を調べたりした。また、調べた語句を使って、短文作りをする課題を宿題として出す等、単元のはじめに指導し、定着を図った。

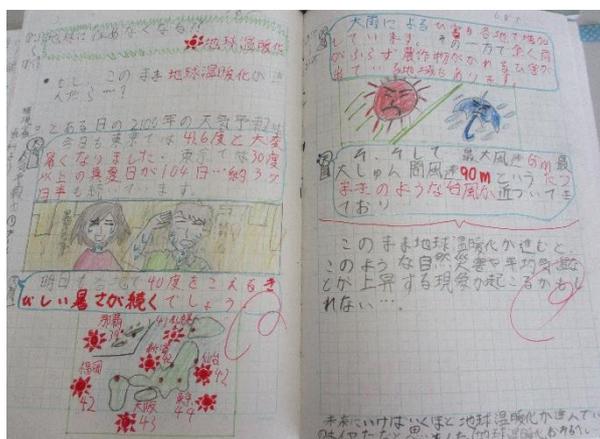
・文章を読むときのきまりや、方法の指導

表現の仕方を提示する

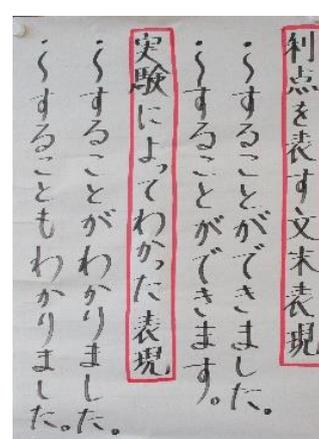
雪エネルギーがどのように利用されているのか分かるように、利用の仕方を述べている表現や、利点を取り上げている表現の文末表現を指導した。



(学習用語の確認)



(調べ学習…自学ノート)

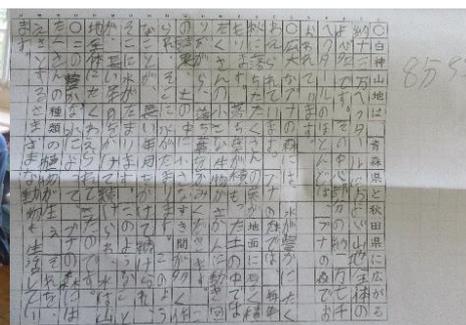


(文末表現の提示)

・音読や視写の工夫した継続的な指導



(音読検定に向けての練習の様子)



(帯時間を活用しての視写…10分間)

ペアでの音読練習

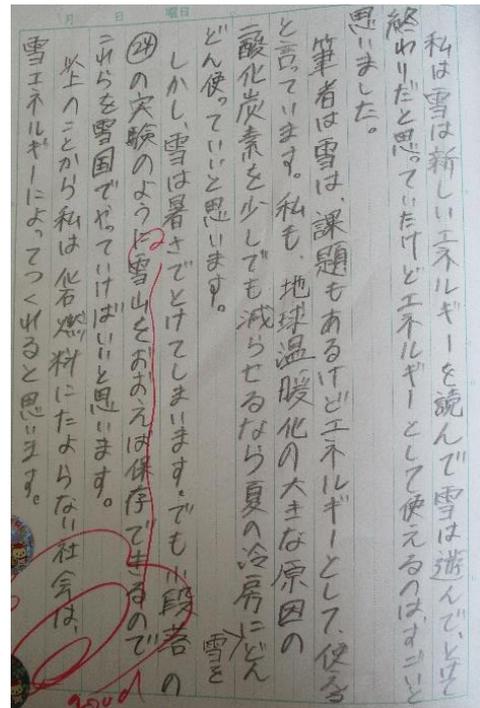
意味段落ごとに、音読検定を実施した。授業始めの5分間や帯時間を活用した。最後までつかえずに読むことを目標にすると、言葉をよく見るようになり、意欲的に取り組めるようになった。

時間内での視写活動

始めは、10分間で半分もいかなかった児童でも、繰り返していくうちに、文章に慣れてすらすらと書けるようになった。10分間で書き終える達成率が100%になった。

・「話す・聞く」「書く」と関連させる指導

筆者の考えを読み、説明の仕方を考え、学習感想文にまとめる活動を単元のゴールに設定した。そこで、筆者が何を伝えようとしているのか、叙述をもとに自分の考えを書き、友達と交流する場面を毎時取り入れるようにした。

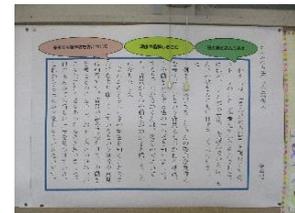
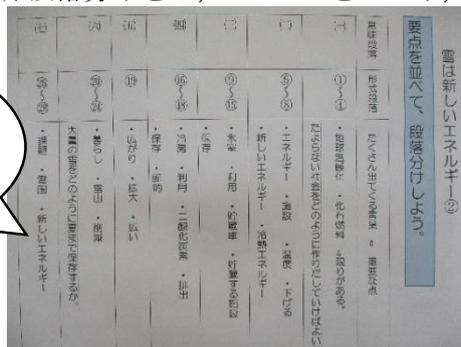
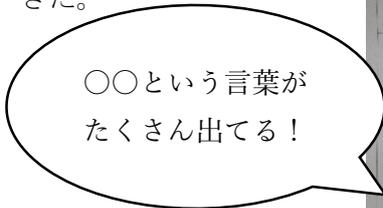


(2) 指導過程や指導方法・評価方法の工夫

・フレームリーディングの理論研修

【俯瞰】→構造と内容の把握

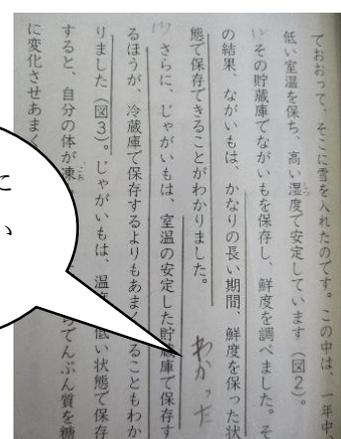
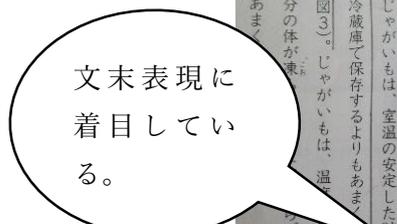
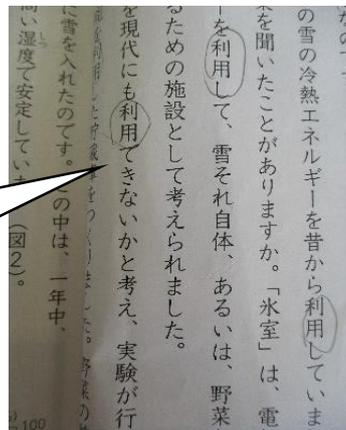
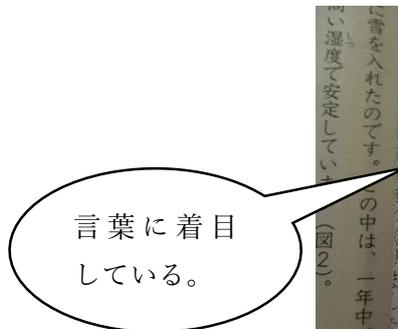
- ・単元のゴールである学習感想文の教師のモデル文を示すことで学習の見通しをもたせる。要点を並べていくことで意味段落分けをし、フレームをつかみ、内容の大体を捉えさせることができた。



教師のモデル文

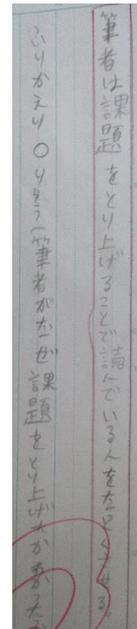
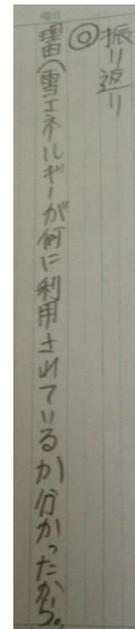
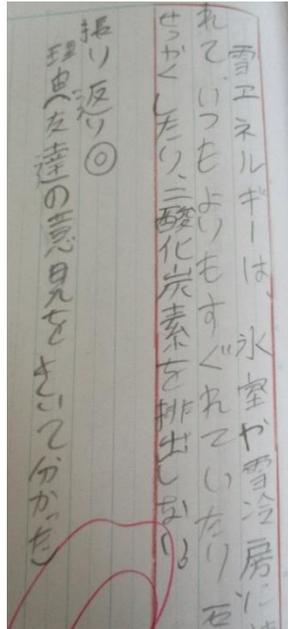
【焦点化】→精査・解釈

- ・雪エネルギーの利用事例と課題はいくつあるか数えさせる。「利用」「課題」の言葉に着目させることで、その一文からどんな良さや課題があるのか意欲的に読み取ろうとする姿が見られた。雪エネルギーの長所を述べている段落に対し、短所を述べている段落に視点をあてさせることで、筆者の主張にどのような効果をあたえているか考えさせることができた。



【再統合】→考えの形成・共有

- 筆者の考えや説明の仕方について、これまでの振り返り（ノート）を参考にしながら、考えたことをまとめ、友達と交流することができた。



• 実態にあった指導計画の見直し

(今日の振り返り)

主語と述語を捉えられない児童の実態から、「主語と述語の対応をみる」学習を、本単元の前に実施した。主語と述語が正しく対応しているか、本単元で文末に着目させた際に、主語は何か考えようとする児童の姿が見られた。本単元では、筆者の主張を捉えさせるために、雪エネルギーの利用と課題に焦点をあて、学習計画を立てた。



• 発問の工夫

雪エネルギーの利用例や、その長所と短所を捉えながら、筆者の主張をつかむことが大切になってくるため、「利用」→「使う」という言葉に着目させた。また、長所と短所については、別の言葉に置き換えさせると児童から「良いところ」「悪いところ」と発言があったため、児童の反応した言葉を発問に使うようにした。

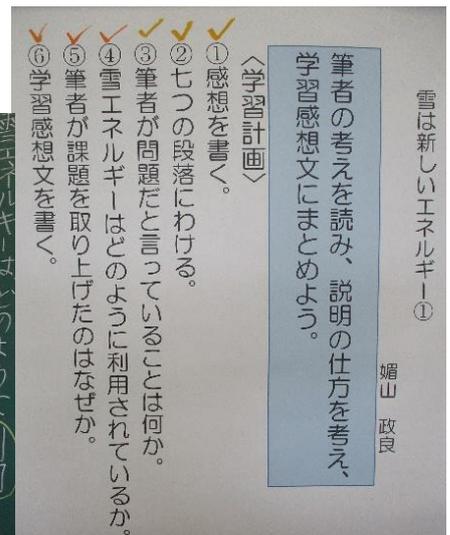
T「雪を何に使っているの？」

C「冷房」

T「冷房って、(教室にある冷房を示して) この冷房と同じ？」

C「違う。」「雪を使ってる。」

T「雪を冷房に使うとどんな良いことがあるの？」雪冷房と冷房を比較できるような発問をしたことで、雪を使っていることの違いや、良さを読み取ろうとする姿が見られた。



成果と課題

読みの手がかり

- 多くの児童(外国籍の児童も含め)が参加することができた。
- 教科書に印をつけることで教えられたので、全学年で共通の表記の仕方を設定すると良いことが分かった。
- 児童に分かりやすいように、映像や、画像で提示し数えた。
- 多く出てくる言葉に着目させることで、音読をゲーム感覚で取り組める児童がいた。
- 数え間違いを生かし、確認のためにもう一度全体で読み直す機会ができ、正確さを高めた。
- 何を数えるか、迷うことがあった。「キーワード」は一つでは無い場合もある。
- 内容を問う場合の発問の言い方の吟味が必要だった。

文章全体のつながり

- 挿絵とせりふ会話文などを手がかりにすると、話のあらすじがとらえやすかった。
- 叙述をもとに、どのような事実を理由や事例として挙げているか着目し、筆者の主張を捉えることができた。
- 形式段落を内容や表記に着目することで、スムーズに見つけることができた。
- 段落構成までは児童の力ではできていない。一文のみのつながりの役目の段落など、それぞれの段落の役目を理解するための指導を工夫する必要がある。
- 大段落のまとまりをつかませる手立てが必要だった。(主語など、中心となる語や文を生かせる場合もあった。)

自分の表現にいかす

- ノートにいろいろな意見を書くことができた。読みから生かすことができた。(6年)
- 筆者の意見に賛成反対の二択ではなく、ある面では違うと考える意見も出てきた。
- 音読劇(1年)で動作化をしたことにより、読み取り段階の考え方や感じ方を認め合う姿が見られた。
- 音読検定では言葉の一つ一つを捉えることができた。ペアで確認し合った。聞く側も文章をよく見ていた。
- 音読指導の工夫により、文章の内容や表現をよく理解し、技法を生かすことができた。
- 音読テスト(1年)は授業時間に行うことで、表現の良さや他の児童の理解を助ける効果もあった。
- 絵本でなくCDで聞かせる。絵を描かせる。元の絵に引っ張られずに印象深いところを表現することができた。児童の感想の聞き取りにも活用できた。

児童の実態と教師の指導

- 主語と述語は短い文なら照応できるが、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句が含まれると分からなくなる児童が多い。大事な言葉や結果を問うなど述語を先に探すことを意識し授業の中で、繰り返し学習していくようにしたい。
- 文と文との接続を捉えることに時間がかかった。接続する語句のみでなく語句の係り方や語順、書き出しや文末の言い回しなどに着目させていく必要があった。
- 補足的な発問、切り返し的な発問など児童の思考や発言に合わせて、出すことに苦労した。児童の思考なお流れを意識し、評価も考えた発問計画が必要だった。